



令和3年度

横浜市立生麦小学校

学校だより

横浜市鶴見区生麦4-15-1 学校長 沼田 留美子
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>



9月(長月)

あつかった夏過ぎて、一步踏み出す

校長 沼田 留美子

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が急増し、ついに緊急事態宣言が出されました。突然の臨時休業、分散登校のスタートとなり、保護者の皆様には対応に追われたことと思います。各御家庭からメールでの健康観察などのご連絡もいただきました。ご理解ご協力いただきありがとうございます。今日、子どもたちが生麦小学校に戻ってきた姿を見て、学校も元気が出てきました。感染拡大防止のため、引き続き学校では対策をより丁寧にとりながら、教育活動を進めてまいります。人類は過去にもさまざまな病気のウイルスと闘ってきた歴史があります。現代ならではの知恵を絞り、ワクチン接種などで対策を講じていますが、収束にはまだ時間がかかりそうです。皆様どうぞご愛ください。

7月から8月にかけてこれまで経験したことのない暑さが話題になりました。また、日本各地で記録的な豪雨や洪水がおき、多くの方が被害を受けました。世界的にも、気温が50度以上に上昇、気象が原因で山火事が発生、記録的豪雨洪水などいろいろな国で起きました。地球温暖化により世界中で異常気象の発生頻度も高まっています。被害にあわれた方の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。災害や医療等に従事されている皆様の困難に立ち向かう姿を報道等で見るたびに心が熱くなります。多くの皆様の支えに感謝いたします。

地球規模の危機的な状況にありながらも、人間は知恵と勇気をもって対応する力があることを感じたのがオリンピック・パラリンピックです。感染防止への取組みを含め、人間の崇高さ、夢さ、美しさ、様々なシーン、熱戦に心がゆさぶられました。横浜スタジアムを会場に13年ぶりに開催されたソフトボールでは、前回同様、エースピッチャーをつとめた上野由岐子さんが、次々と相手チームからアウトを取っていく姿に驚愕しました。13年もの間、競技を続けられるか大きな葛藤があったと聞いています。どうしてその技とモチベーションをもち続けられたのでしょうか。上野さんが語る言葉にヒントがあります。

「360度どこを向いても前向きなのだと思う。一步でも進んでいけば、たとえ遠回りだったとしてもいつかはたどり着ける。」

自然や社会は私たちに様々な試練を与えます。パラリンピックでは障害を乗り越え、自分の強みを生かした活躍に、知恵をしぼる崇高さを感じます。「たとえ遠回りでもいつかはたどり着ける」。平和を願い、命を守り、誰もが安心して過ごせる社会、未来を創るために日々の学びがあります。一步を踏み出す人を育てる学校でありたいと熱く心に誓う夏でした。